

くまがや自治連だより

ひろば

第11号

平成24年3月発行

自主防災組織を 立ち上げましょう

熊谷市自治会連合会副会長

茂木 祥一

ここ数年、阪神淡路大震災、中越地震として昨年は東日本大震災、原発事故と大きな災害が発生しています。災害は忘れた頃にやってくると思われがちですが、日頃からの備えが大切です。

これらの災害が発生した地域では、自主防災組織が大きな役割を果たしていることは、皆さんご承知の通りです。

現在熊谷市の危機管理室では、各自治会に対して自主防災組織の立ち上げを呼びかけていますが、自主防災組織の結成率は、1月1日現在52.3%（176自治会）のことです。

自主防災活動には初期消火・避難誘導として救護活動等があります。これらの訓練を繰り返し実施することにより、被害を最小限に食い止められるのでは無いでしょうか。

「自分たちの地域は自分たちで守る」をモットーにして自主防災組織を立ち上げ、いつ発生するかわからない災害に備えて、訓練を実施しておくことが肝要かと思われれます。自主防災組織を立ち上げましょう！

◆長井自治会連合会◆

会長 茂木 進 一

長井自治会連合会は18の単位自治会で構成され、加入世帯数は2,445世帯(平成23年4月1日現在)と年々増加しております。地区内は商業地域も少なく、工場、団地等も多少はありますが、殆んどが静かな農村地帯です。

今回は公民館、校区連絡会等と協力し活動している事業と、地区内の史跡を紹介したいと思います。

長井敬老会(長井公民館と連携)

平成23年9月19日、長井小学校の体育館で、75歳以上(708人)の方を対象に長井公民館、長井自治会連合会及び地区民生委員児童委員協

議会共催で実施し、会場作り、記念品の袋詰め、受付及び後片付け等は、公民館、自治会、民生委員の役員全員で協力しながら手際よく行ってくれました。式典の終了後、小学生のコーラスや長井公民館で活動してい



長井敬老会

るグループの皆様の余興等で、大いに楽しんでいただきました。

ふれあいパトロール

P T A、校区連絡会と協力し、各単位自治会ごとにボランティアを募り実施しています。小学生の登下校時の安全と事故防止のために、通学路に立ち、挨拶の励行等にも努めながら子供達を見守っています。



ふれあいパトロール

体育行事等

以前は、壮年ソフトボール大会、家庭婦人バレーボール大会等が盛んで多くのチームが参加していました。現在では、若い世代の参加者が少なく、各地区の婦人会等もなくなつてしまひ、残念ながら衰退の一途を辿っています。そこで、今は誰でも気軽に参加できるグラウンド・ゴルフ大会を中心に、住民の体力向上と親睦が図れるよう各自治会とも努めています。

長井神社(西野)

明治以前は、「井殿神社」あるいは「井殿大権現」と称していました。氏子は「井殿」を湧き水の意であると伝えており、水の恵みを称えて祀られたことを物語っています。「新編武蔵風土記稿」では、当社の創建は「承和8年(841年)2月15日、高橋戸須基貞、松平八郎正直の2人建立にして、祭神は、市杵嶋姫命・下照姫命の5座を祀り、永井の総社と唱へし」と記しています。

明治5年に村社となり、長井荘にちなみ長井神社と改称しました。

《信仰》

古くから井殿様のお使いは亀であると伝えられています。例えば、願掛けの際には亀を持参して祈願し、亀の口にお神酒を含ませて用水に放すと願いが叶うとの信仰があります。昭和10年頃までは、拝殿の格子に多数の亀の絵馬が下がっていたと言われています。



長井神社(西野)

◇妻沼聖天山防災協力隊◇

池ノ上自治会長(妻沼聖天山防災協力隊長)

堀越 道夫

池ノ上自治会は妻沼聖天山の周辺を区域とする自治会であります。

今回は、周辺住民が取り組んでいる妻沼聖天山の防災活動を紹介いたします。

妻沼聖天山は縁結びの神様として妻沼聖天様と親しまれています。御本殿は奥殿、中殿、拝殿からなる権現造りで、特に奥殿はすべて彫刻で囲まれていて「埼玉の日光」と言われています。

昭和25年8月に御本尊「御正体錫杖頭」、59年12月に御本殿、平成14年4月に貴物門が国の重要文化財に指定され、又埼玉県指定文化財に昭和34年3月に「紵糸斗帳」、36年3月に「鰐口」、40年3月に「板碑」が指定されております。そこで本殿が重要文化財に指定された機会に防災



施設の設置を勧奨され、昭和61年度にポンプ室、貯水槽、火災感知器、放水銃7基、屋内外消火栓3基、発信サイレン、受信機及び遠隔操作盤を境内に設置しました。その維持管理運用のため院主より近隣住民の協力の要請があり、有事の際にサイレンが聞こえ出動できる人を選びました。まず消防団OB25名を中心に、昭和62年10月に発足しました。25名を5班に分け、それぞれ順番で月に2度、班にすれば約2か月に1度、設備の点検管理訓練を行っております。文化財防火デーの1月26日は毎年総出動訓練とし、失火を想定、初期消火訓練、火災を大声で周囲に知らせ、消防署へ通報、宝物の持出し、消火器・放水銃・消火栓等からの一斉放水を行います。この時は消防署関係者、文化財関係者、近隣自治会長、近隣学校長等に来賓としておいでいただき、訓練の様子を視察してもらい、終了後に来賓各位からの挨拶をいただきました。本殿は平成15年から23年まで8年にわたって文化財としての保存修理工事が行われました。彫刻等の彩色が創建当初に復元され、絢爛豪華

なお堂に生まれ変わり、これと共に本殿の火災報知機と故障の多かったポンプが新調されました。新装の本殿を観覧する人が県内外から多数来訪されています。

この様な記念すべき年に、地元住民による防災協力隊を結成し、火災予防のパトロール、消火訓練を行い、文化財の火災予防活動により、防災意識の向上に寄与していると、11月14日埼玉会館にて「シラコバト賞」を拝受しました。隊員一同、身の引き締まる思いです。目下の課題は、結成以来の隊員がほとんどで年齢が上がつている事です。消防団を退団した近隣の人に入隊してもらっていますが、若い隊員を見つけないのが大変です。

最後に本年度の文化財防火デーの訓練は、1月22日、聖天山近隣の出火を想定し、消防署、消防団及び我々も参加して行いました。来年度以降も文化財防火デーの訓練は、1月26日前後に開催する予定ですので、ぜひ足をお運びください。



◆恩田のささら獅子舞◆

下恩田自治会長 嶋崎 守夫

下恩田自治会は大里地区に属し、会員世帯数は88世帯である。様々な活動を行っているが、その中でコミュニティの最も重要な行事にささら獅子舞がある。

埼玉県下27か所できさら獅子舞が行われているが、そのうちの1つである。伝説によると恩田の獅子舞は約200年前の江戸時代の後期より始められたと言われている。当時、当地方に恐ろしい伝染病が発生し多くの村民が苦しめられた。協議の結果、獅子舞を借りてきて病魔を追い払うことにし、これを行ったところ瞬く間に病魔は退散し平和な村となった。そこで村民一同これに感謝し、諏訪神社に舞を奉納した。

夏祭りは8月27日だが、この時期は稲作にも大事な時期で、諏訪荒れと言われ、大風が吹いたり大雨が降ったりするので五穀豊穡と氏子の繁栄、



無病息災を祈願した。以前は、村を挙げてのお祭りであったが、長男以外は参加できず、お獅子をかぶるのは順番、棒使いも4人1組で8組が6尺位の棒で激しく打ち合う（立棒、くずし、返し棒、井桁など）。拍子木を打って元気づけ、怪我の無いように塩をふるなど豪快であったが、その後社会情勢の変化と共に中断せざるを得ない状態となり、現在は保存会が中心となっている。

最近は当日に近い日曜日に行われているが、小学生中心の祭りであるがために、近年少子化が進み人数を確保するのに保存会の会長をはじめ役員の方苦は大変なものである。

ささらは次のような人々で構成される。

1 万燈持ち：花飾りのついた万燈を持ったお祭りの案内人。

2 棒使い：4人1組となり赤いタスキが上棒、青いタスキが下棒で獅子の入場する場所の悪魔を払う。



3 法 院：山伏姿でほら貝を随所で吹く。
4 花 笠：4人が花のついた笠をかぶり竹で作った楽器（ささら）で獅子舞の拍子をとる。

5 八戒棒：2人が木刀を持ってエイヤツと悪魔を払う。

6 獅 子：3人 法眼・女獅子・男獅子

7 笛吹き：獅子はこの横笛にあわせて獅子舞をする。

8 唄唄い：笛の無い所は唄にあわせて獅子舞をする。

以上の構成であるが、棒使い、笛吹き、唄唄いが大人で他は小学生達である。

獅子舞は1つ1つの舞に意味がある。春には花見をしていると突然春雷があり、人生も良い事ばかりではないという戒めが含まれる。法眼と男獅子が女獅子の取り合いをする。悪魔払いでは弊束（悪魔を払った弊束）を獅子が飲み込む。その他、田んぼの草取り（1番草、2番草）、すりこみ、すりだし、宿礼等が諏訪神社に奉納される。

平成23年度県外研修

11月15日、185名の自治会長の参加による県外研修を開催しました。本年度は、「新潟県中越地震の被災体験を活かした地域の防災力」をテーマに、新潟県柏崎市においての研修でした。

柏崎市北条地区コミュニティ振興協議会では、地域に根ざした先進的な取り組みが評価され、総務省が主催する平成21年度防災まちづくり大賞の消防庁長官賞、平成22年には防災分野で最高峰と言われる防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。現地では、同コミュニティ振興協議会会長である江尻東磨講師より、新潟県中越地震による被災状況や住民が一丸となって地域の防災力を高める取り組みを、体験談を踏まえてお話いただきました。

柏崎市北条地区では、平成16年の中越地震でライフラインが故障しトイレが使えなくなって汚物が溢れ出したり、避難所生活を強いられた経験により、防災組織の重要性を痛感したそうです。柏崎市のコミュニティ振興協議会は熊谷市で言うと公民館運営協議会に近い組織で、地区の町内会と協力して災害に備えた様々な取り組みを導入しています。障害者にも参加してもらう防災訓練の実施や要援護者台帳への登録の呼びかけ、毎月行う無線機での応答訓練、小中学校とタイアップして行う避難訓練など、災害時を想定した訓練をこまめに開催しています。

防災組織を立ち上げたことによる効果としては、ケガ人等の状況把握の迅速化や支援物資の優先的な受給などのほか、様々なイベントを一緒に開催してきたことにより地域の人たちの絆が強くなったということです。



参加した自治会長の感想



- 自治会長として、どのようなことを地域で行えばいいのか分からなかったが、講演を聞いて小学校の運動会のような行事にも積極的に参加することが、地域コミュニティや防災のために大変重要であることが分かった。
- 様々な取り組みを行う姿勢に刺激を受けた。私たちも出来ることからやってみようと思った。
- 防災訓練を実施する前に、被災した実体験に基づく話を聞いてとても参考になった。

新任自治会長研修

6月28日に、本年度新しく自治会長になられた方を対象に、新任自治会長研修を開催しました。

研修には、91名の自治会長の参加があり、自治会制度、連合会の事業、自治会に関連する市事業などの説明のほか、「自治会活動の実態」と題して、熊谷市自治会連合会の小林会長、宗我部副会長を講師として、自治会活動の状況をご紹介いただきました。



妻沼会場



江南会場

参加した自治会長の感想

- どの自治会にも同じ悩みがあり、その実態についての活動方法が参考になり、役員で話し合ってみようと思った。
- 市事業とのかかわり方、必要性についての資料が詳しく役に立った。
- 実体験豊富な会長からの話を聞くことができ、大変参考になった。
- 前任からの引き継ぎが不十分だったが、研修に参加し、会長としての役割がわかって良かった。

第2回 親睦グラウンド・ゴルフ大会

7月5日(火)に、熊谷スポーツ文化公園の彩の国くまがやドームにおいて、常日頃各自治会で活動している自治会役員が、グラウンド・ゴルフを通じて他の自治会との交流を深めるとともに、参加者の健康の増進を図ることを目的として、第2回親睦グラウンド・ゴルフ大会を開催しました。

64チーム、312名の選手が参加し、熊谷市グラウンド・ゴルフ協会の協力をいただいて、和やかな雰囲気の中、熱戦が繰り広げられました。



始球式に参加した
市民活動イメージキャラクター「ニャオざね」



大会の様子

大会の結果

- 優勝 成田自治会連合会Aチーム
- 準優勝 中条自治会連合会チーム
- 第3位 上石自治会連合会Aチーム

お詫びと訂正

「ひろば」第10号7ページ東日本大震災義援金協力連合会・自治会一覧の中で、「御正第3自治会」の掲載が漏れてしまいました。自治会員の皆様には、多大なるご迷惑をおかけしましたことをここに深くお詫び申し上げます。

また、曙町・万平町自治会連合会、箱田常盤自治会、藤之宮自治会、別府四丁目自治会、今井自治会、中条川北自治会、小曾根自治会、大塚自治会及び中条川南自治会からも義援金の協力をいただいております。誠にありがとうございました。

編集後記

80年前の西埼玉地震は熊谷を始め深谷・吹上・児玉などの地域に甚大な被害をもたらした。死者16名、負傷者146名、家屋被害は全壊207棟、半壊124棟であった。(熊谷地方気象台「西埼玉強震報告」による)

熊谷を取り巻く活断層は活動期に入り、いつ地震が起こってもおかしくない状況である、と熊谷気象台の人より資料をいただいた。

東日本大震災の教訓からも「備えあれば憂いなし」。普段の地域活動を通して絆を深めていき、自治会(自主防災会)を中心に行うことができることから防災訓練を実施し、地域の人々の心を安穩にすることは急務である。全国初の中学生による熊谷・江南地区災害時情報伝達、安否確認等の防災訓練の様子が昨年10月14日の「おはよう日本」等のNHKテレビで報道され話題を呼んだ。「ひろば」の紙面から、各自治会の防災が充実されることを祈念し編集後記とする。

熊谷市自治会連合会副会長

小柴 清

訃報

謹んでお悔やみ申し上げますと共に、冥福をお祈り申し上げます。
◆松本 覺さん 銀座 丁目自治会長
平成23年10月10日 逝去